（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年４月 26 日

県立中央農業高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の意欲を高める新たな教育課程を編成し、確かな学力及び農業に関する専門性の向上を図る。	①4 年間の目標の達成年度として、１人 1 台端末を活用した教育課程の運用・展開について検証する。また、全教科において問題解決型学習習得のための授業展開を進める。	①1 人 1 台端末を活用し、各教科の目標を明確に提示した上、生徒がその目標達成に向けて自ら振り返り、考える授業を展開することができる、研修等の工夫を行う。また、授業観察での振り返りを活用し、授業改善することを通じて、生徒の問題解決能力習得を図る機運を高める。	①生徒が自ら考え、主体的に取り組む授業を展開することができたか。また、授業力向上のための職員研修を適切な時期に行うことができたか。					
		②生徒の主体的な行動を促し、生徒会活動や農業クラブの活動を充実させる。	②農業クラブ活動でプロジェクト学習法を習得し、課題解決能力の向上を目指す。	②農業科目でのプロジェクト学習法の定着から農ク専門研究部での応用研究に発展させるため、指導者及び生徒のモチベーションを向上させることを行う。	②コロナウイルス感染症対策を講じた上に、活動実績をあげることができたか。					
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①基本的な生活習慣を確立・定着させるとともに、規範意識の醸成を図り、部活動を活性化させ、豊かな人間性、社会性を育む。	①挨拶の励行や新たな生活様式の指導を通して、基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の定着を図るとともに、4 年間の目標の達成年度として検証する。	①新たな生活様式の確立と、時間を意識した自己管理能力の定着の両立を目指し登校指導や SHR を活用する。	①健康観察の習慣をつけることができたか。また、登校指導や声掛けを通して生徒の遅刻等の状況が改善されたか。					
		②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導、支援体制の充実を図る。	②インクルーシブ教育の視点にたった生徒一人ひとりの個性や状況に応じた生徒指導、支援体制の充実を図る。	②生徒支援体制の充実に向け、教育相談や三者面談、各学科会議等を活用し、生徒理解を進める。また、SC・SSW と情報共有しながら生徒の現状を把握し、支援する。えびな支援学校のセンター的機能を活用する等、個々の教育相談の機会と充実を図る。	②生徒支援体制を軸にした教育相談における実施状況、生徒情報の共有が機能したか。えびな支援学校との連携活動の実施回数はどうだったか。					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（　月　日実施）	成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	①体験的学習を重視し、勤労観・職業観を育成し、進路指導の充実を図る。 ②社会的自立に向けた教育の充実に取り組む。	①勤労観・職業観を育成するため、従来の方策に感染症防止策を盛り込み活動の継続を図る。 ②生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路説明会・進路別ガイダンスを計画的に行う。	①勤労観・職業観の意識向上を目指し、協力企業へのアプローチや生徒の事前指導を徹底し、新しい生活様式において体験できる体制を構築する。 ②面談等を通じて生徒一人ひとりの進路希望を把握し、実現に向けたサポートを全職員で実施する。	①農業体験活動やインターンシップ活動等への参加者が増加したか。 ②個別に丁寧な進路指導を行い、生徒の希望どおりの進路実現が図れたか。進路別説明会が計画どおり実施できたか。					
４	地域等との協働	①学校の教育力（農業）を活かし、地域との協働・連携を一層強化する。 ②えびな支援学校との連携・交流を通して、インクルーシブ教育の推進を図り、いのちや人権を尊重する精神を育む。	①産業界との連携を進め、農業教育を活かした本校の活動を地域に発信し、コロナ禍以前の地域との協働活動を推進するとともに、4 年間の目標の達成年度として、検証する。 ②えびな支援学校との連携・交流を様々な場面で行い、インクルーシブ教育への理解を深める。	①デュアルシステムやインターンシップ、農業体験、農業クラブ校外活動を積極的に進め実践させることにより、地域や社会の発展を支える意識と態度を身につけさせる。 ②えびな支援学校と連携して、農業クラブを中心に動植物との触れ合いを通してインクルーシブ教育を深める活動を展開する。	①地域からの要望を踏まえつつ、コロナ禍以前の地域との連携・協働活動に近づけたか。令和４年度実績を上回ることができたか。 ②えびな支援学校との連携・交流を通して、参加した生徒の意識が変容したか。					
５	学校管理 学校運営	①学校施設環境を整備し、防災・防犯意識を高め安全教育を充実させる。 ②事故・不祥事防止の徹底を図り、信頼される学校づくりを推進する。	①学校施設環境の整備と大規模災害を想定した避難訓練や安全教育の充実を図り防災意識を高めるとともに、4 年間の目標の達成年度として、検証する。 ②風通しの良い職場づくりを意識し、事故・不祥事防止の徹底を図る。	①安心で快適な学習施設環境を整備し、災害時における行動指針や連絡環境を整備・確認する。また、実験・実習において農作業器具等の取扱基準を順守し、事故をゼロにするよう取り組む。 ②業務の方針や進め方について情報共有を行い、特定の人に業務が集中することがないよう意見聴取等を行い問題点を洗い出し改善点を提示する。	①安全・安心な学習環境の整備が行えたか。また、実験や実習での事故防止ができたか。避難訓練等の実施後アンケートにより意識向上が見られたか。 ②業務の見直しや業務分担が明確にされたか。分掌・グループ業務が計画どおり実施できたか。					